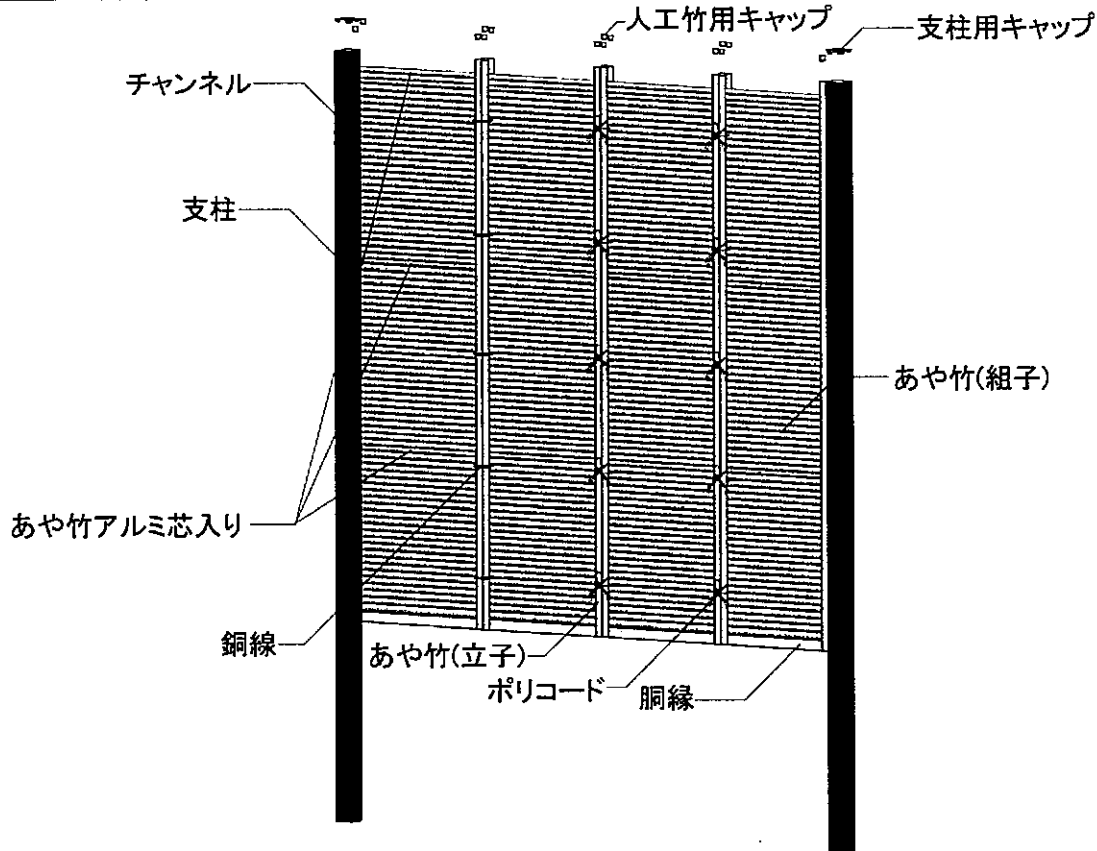


和風エクステリア 人工竹垣シリーズ

この度は、弊社の人工竹垣フェンスをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書には、製品を安全にご使用いただくための注意事項が記載されております。製品を施工する前に、必ず本書の「設置上のご注意」、「施工上のご注意」、「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。

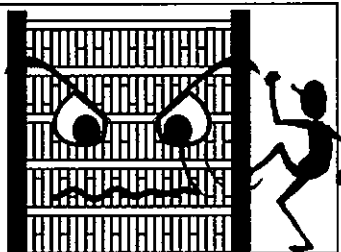
■部材構成及び各部名称



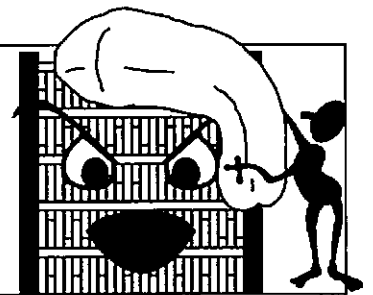
■使用上のご注意 フェンスは、隣地境界を目的に設置するものです。防護柵や手すりとしては使用しないでください。

⚠ 注意

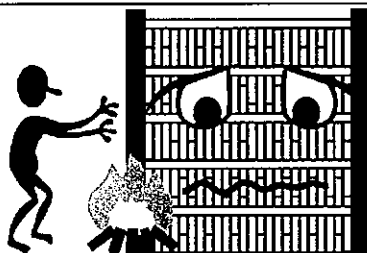
ケガをする恐れがありますので、揺すったり、乗ったり、寄りかかったりしないでください。



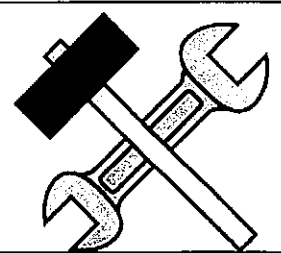
重みで変形することがありますので、雨具・洗濯物・布団等を載せないでください。



樹脂製品は、熱変形温度が低く、引火の可能性もありますので、近くで焚き火等をしないでください。



ネジやボルトなどは、勝手にゆるめたり外したりしないでください。また、加工・改造したりしないでください。



お問い合わせは

株式会社 **タケヒロ産業**

〒444 0823 愛知県岡崎市上地3丁目41-1

タケヒロホームページ: <http://www.takehiro.co.jp>
メールアドレス: takehiro@takehiro.co.jp

TEL (0564) 52-5511(代)

TEL (04) 2955-8811 関東営業所

2006.09

注意

- 商品の施工につきましては、必ずこの組立説明書に従ってください。
- フェンスは隣地境界を目的に設置するものです。防護柵や手すりとしては使用しないでください。

設置上のご注意

注意

- 竹垣は、風当たりの強いところや、地盤の弱いところなどで使用する場合には、必ず補助の柱(控え柱)が必要ですので、別途ご相談ください。
- 人工樹脂は、一般金属などと比べると、熱変形温度が低く(約80~95℃)、引火の可能性もありますので、火気のそばや高温を発するところでは使用しないでください。

施工上のご注意

注意

- 商品を組み合わせて使用する場合、指定の部材を使用してください。指定外の部材の使用は避けください。
- 人工樹脂素材は、温度差により伸縮します。パネルなどを違う材質のものと同定する場合、ビス穴等には必ず余裕を持たせてください。
- 人工竹垣の各部材は、他社の類似製品とは素材、品質、仕様が異なります。他社製品との併用は避けください。
- 柱は必ず地中に埋め込み、コンクリート等で固定してください。
- コンクリートに使用する砂に、塩分を含んだ海砂などは避けてください。アルミ合金が腐食する恐れがあります。
- コンクリートに速乾性添加物を入れないでください。アルミ合金が腐食する恐れがあります。
- 設置場所の地下埋設物の有無を確認し、破損しないようにしてください。
- 寒冷地では凍結により、埋設部分が浮上することがありますので、その地域の凍結震度に合わせて基礎を考慮してください。
- 仕上後、本体についたモルタルを完全にふき取ってください。硬化してしまうと、ふき取り時に製品の表面を傷めますのでご注意ください。
- 施工にあたっては、製品の水平・垂直、ねじれ等にご注意ください。
- みだりに製品の改造を行わないでください。
- 施工完了後、ボルト、ねじ、金属等の緩み、脱落がないか再度点検してください。

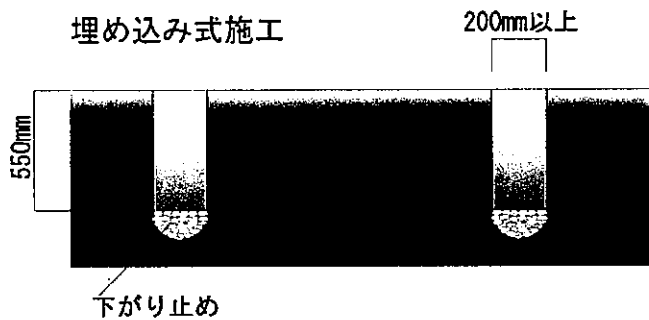
工事店さまへのお願い

注意

- 施工完了後、組立説明書及び取扱説明書は、施主さまにお渡しください。
- 廃棄する場合は、素材ごとに選別し、一般廃棄物と一緒に処理しないでください。

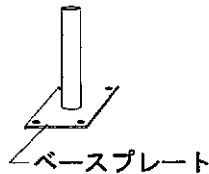
Step 1

基礎の準備

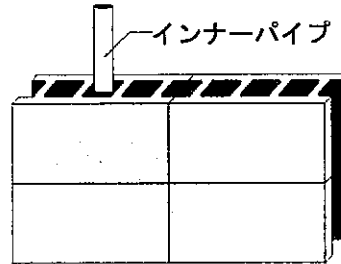


※その他の施工方法

コンクリート上で施工
ベースプレートを使用



ブロック上で施工
インナーパイプを使用



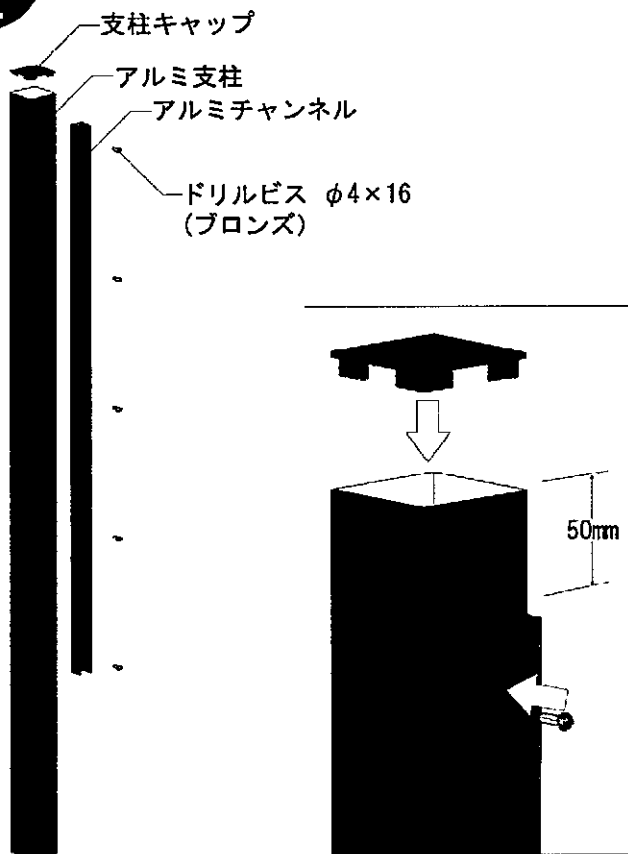
①最初に同封の部材明細より、梱包内容をご確認下さい。

②支柱の埋め込み位置を算出し、基礎穴を掘ります。
※地下埋設物を傷つけないようにご注意下さい。

③支柱の下がりを防ぐ為、穴底には石やブロックなど硬く平らなものを敷いて下さい。

Step 2

チャンネル・支柱キャップの取付



①支柱上部に支柱用キャップを取り付けます。

②チャンネルは支柱上部より50mmの位置で支柱の中心に合わせて、ドリルビスφ4×16(ブロンズ)で取り付けます。

※ドリルビスの目安

- ・1800mmの場合・・・5ヶ所
- ・1500mmの場合・・・4箇所

※ドリルビスの位置

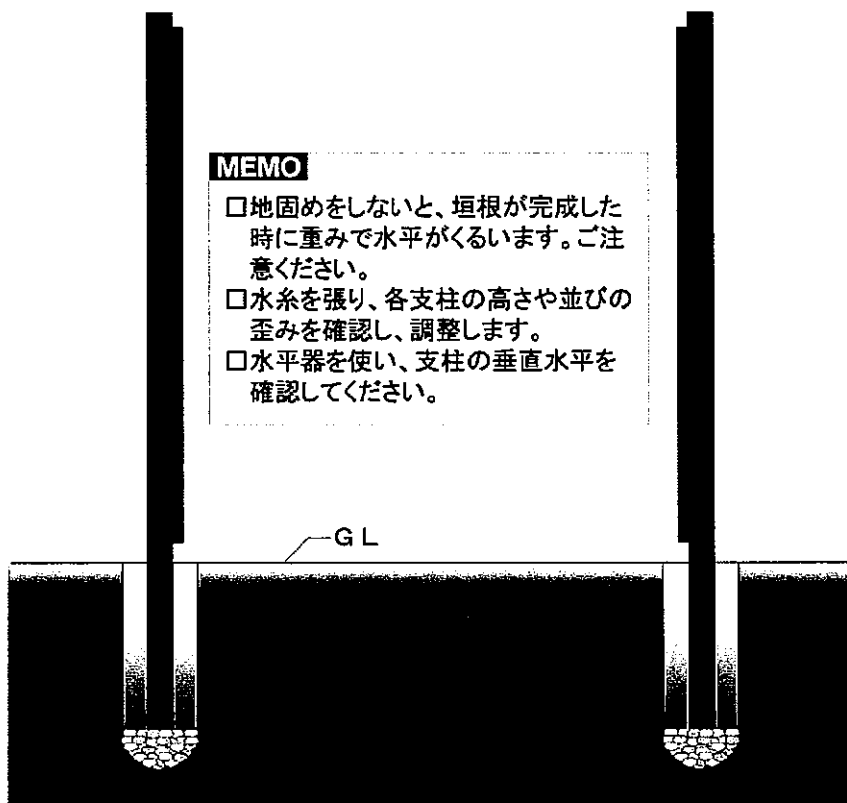
ドリルビスの位置は、後に取付ける胴縁と位置が重ならない様にする。

Step
3

支柱埋め込み

MEMO

- 地固めをしないと、垣根が完成した時に重みで水平がくるきます。ご注意ください。
- 水糸を張り、各支柱の高さや並びの歪みを確認し、調整します。
- 水平器を使い、支柱の垂直水平を確認してください。



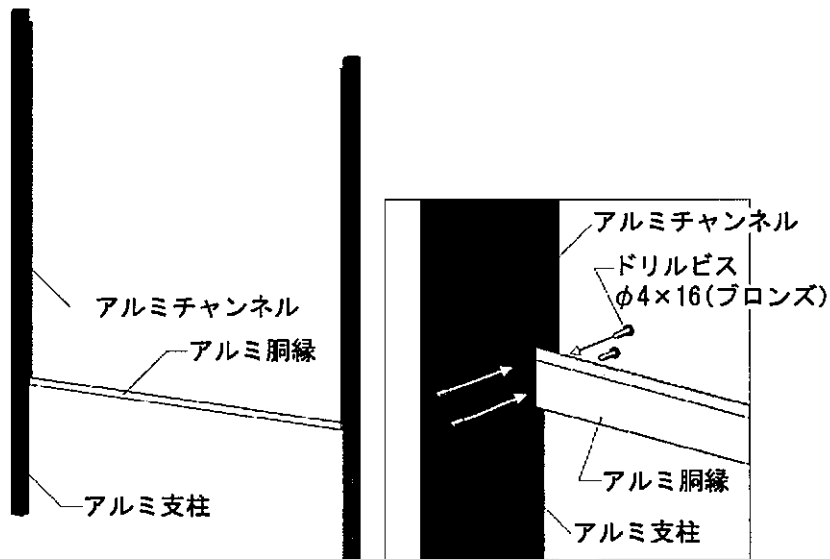
- ①支柱を基礎穴に差し込み、高さや並び、垂直と水平等を確認し、コンクリート等を流し込み固定します。
支柱について余計なコンクリート等は完全に拭き取って下さい。硬化してしまうと、拭き取った時に製品の表面を痛めますのでご注意ください。

※ 注意 ※

- ・コンクリートに使用する砂に、塩分を含んだ海砂等の使用は避けて下さい。アルミ合金が腐食する恐れがあります。
- ・コンクリートに速乾性添加物を入れしないで下さい。アルミ合金が腐食する恐れがあります。

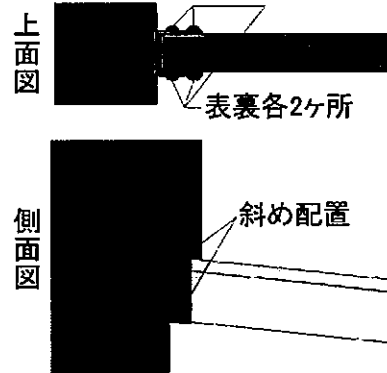
Step
4

胴縁の取り付け



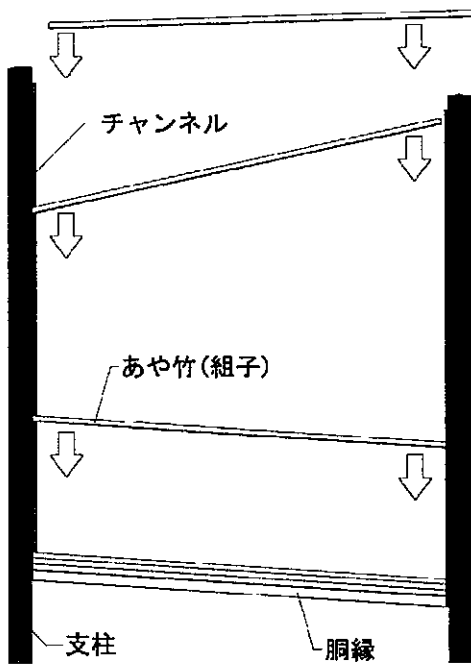
- ①チャンネルの溝に胴縁を差し込み、水平機で水平を測りながらドリルビスφ4×16(ブロンズ)で両端を固定して下さい。

※ドリルビス取付位置の補足



Step 5

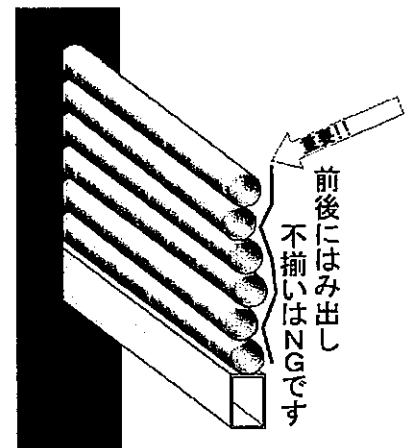
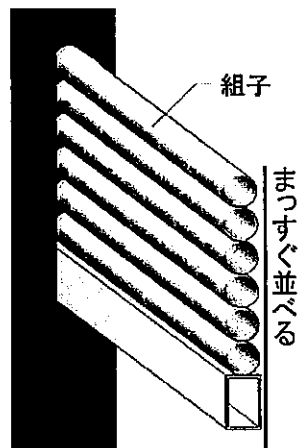
組子の積み上げ



①チャンネルの溝に沿って6本のあや竹(組子)を落とし込み積み上げます。

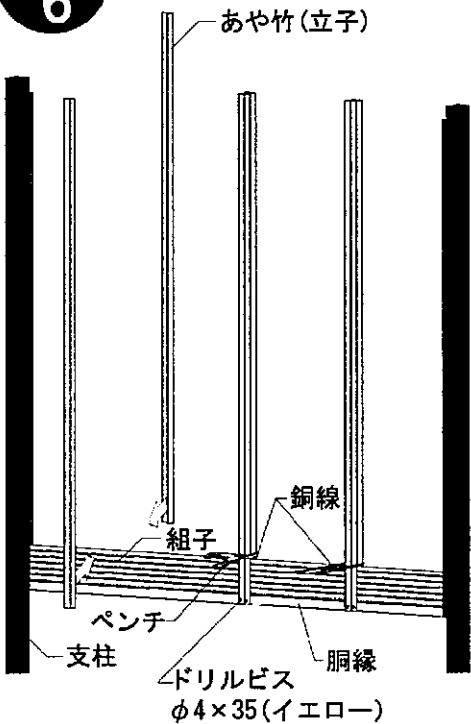
※上から軽く押えて、斜めになっていないか、前後にはみ出ししていないかを確認して下さい。

MEMO



Step 6

立子の取り付け

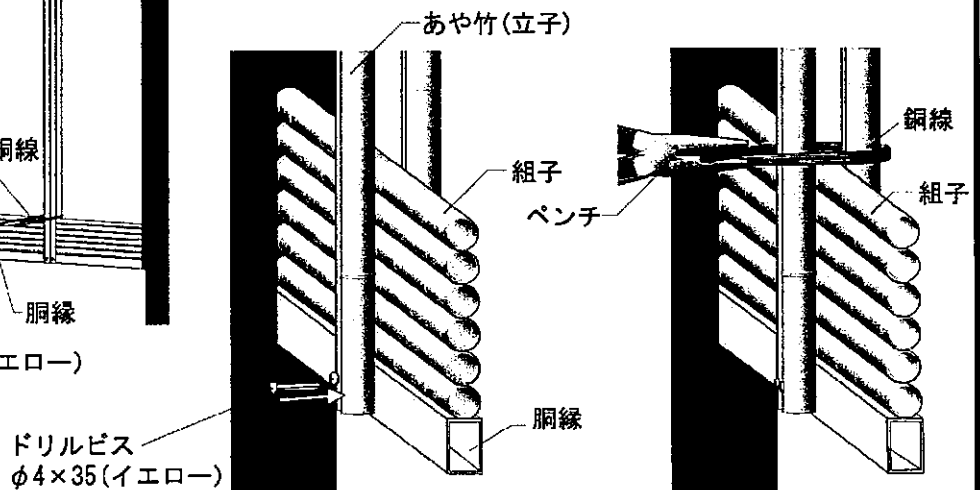


MEMO

□立子は組子の景観を保持する役目(組子が前後にはみ出しを抑制)もあります。

①立子の最下部をドリルビスφ4×35(イエロー)で最下段の胴縁に打ち付けます。垣根の裏表から各2本、計4本を1組にします。

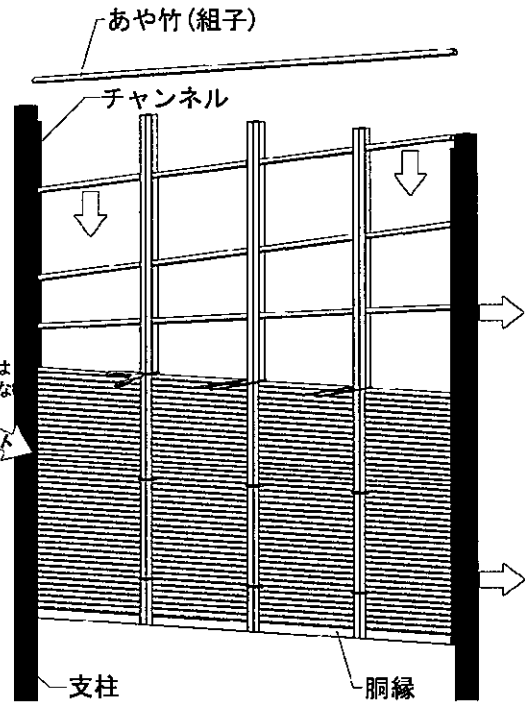
②立子を両側から押えるようにして組子6本目の上で銅線を使いくり付けます。※銅線の締め過ぎにご注意下さい。



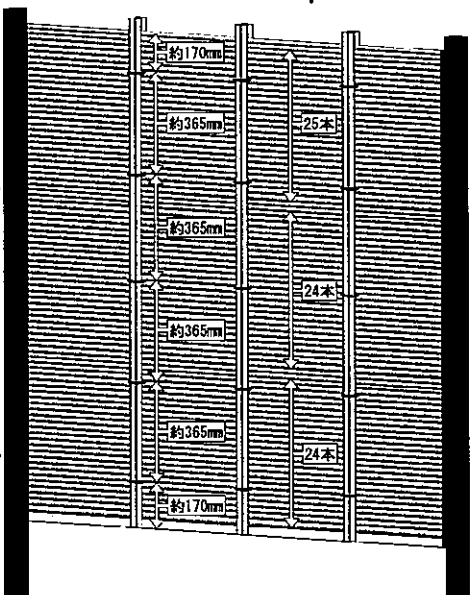
Step 7

組子と補強パイプの積み上げ&固定

- ①あや竹本数、銅線間隔は下図を目安に、あや竹(組子)と胴縁を銅線で締めながら積み上げてます。
※この時点では、2段目より上の固定はしないで下さい。
※下図の本数、寸法はあくまでも目安です。節の当りに合わせ丸竹の本数を調整して下さい。



あや竹アルミ芯入りはこの時点では固定しないポイント



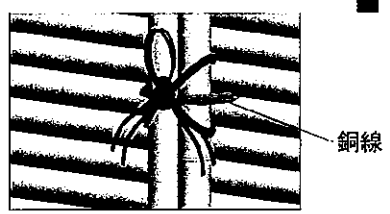
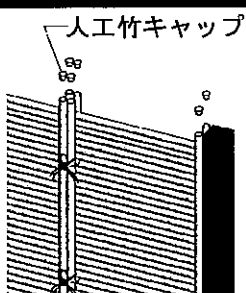
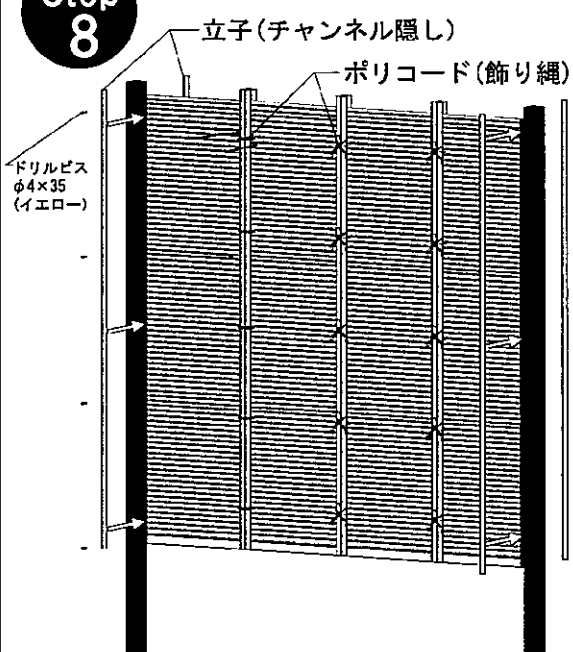
- ②組子をきれいに並べ終わったら、補強パイプをドリルビスφ4×16(ブロンズ)で固定します。



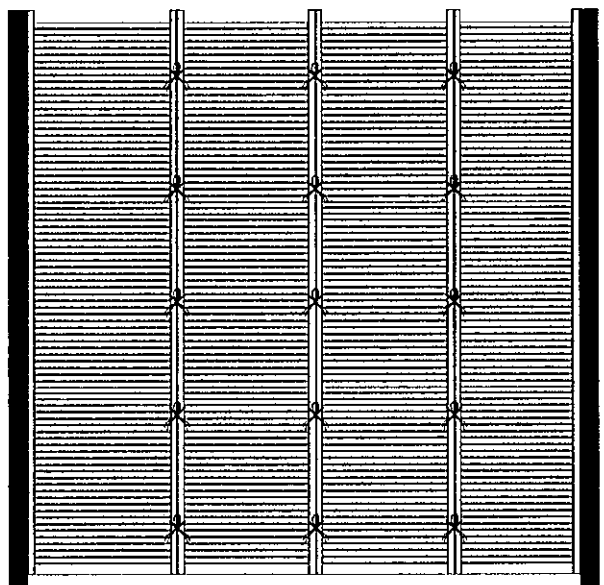
Step 8

立子(チャンネル隠し)と飾り縄の取り付け

- ①立子(チャンネル隠し)をドリルビスφ4×35(イエロー)でチャンネルに打ち付けます。
- ②立子に人工竹キャップをはめて下さい。
- ③銅線の箇所にポリコードで飾り付けます。

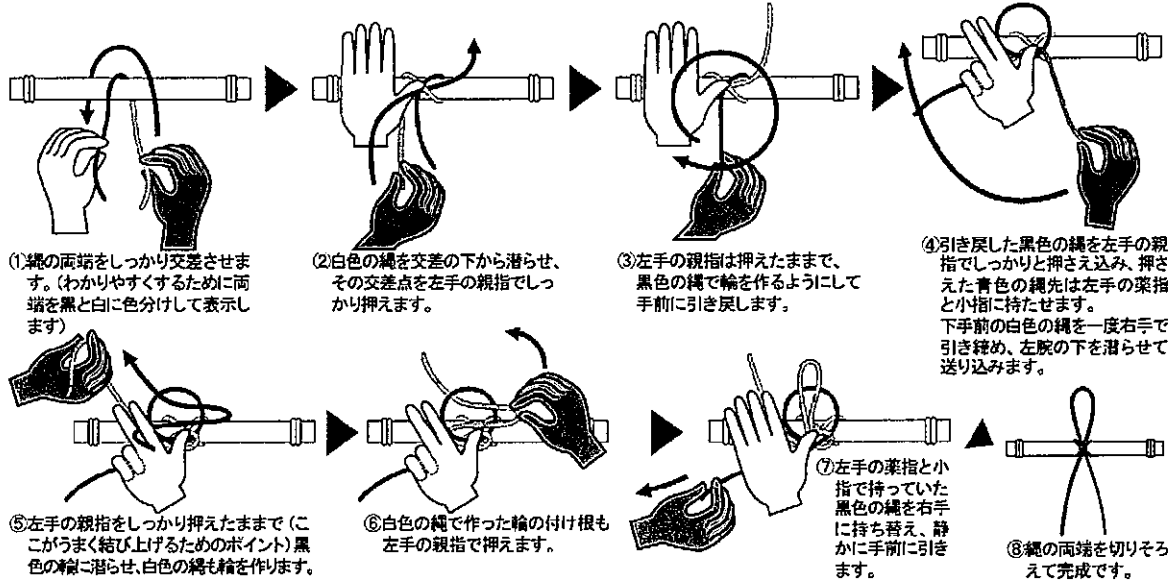


↑立子の飾り縄は裏表別々に結び付けます。



Step 9

飾り縄の結び方



①縄の両端をしっかりと交差させます。(わかりやすくするために両端を黒と白に色分けして表示します)

②白色の縄を交差の下から潜らせ、その交差点を左手の親指でしっかり押えます。

③左手の親指は押えたままで、黒色の縄で輪を作るようにして手前に引き戻します。

④引き戻した黒色の縄を左手の親指でしっかり押さえ込み、押さえた青色の縄先は左手の薬指と小指に持たせます。下手前の白色の縄を一度右手で引き締め、左腕の下を潜らせて送り込みます。

⑤左手の親指をしっかりと押えたままで(ここがうまく結び上げるためのポイント)黒色の縄に潜らせ、白色の縄も輪を作ります。

⑥白色の縄で作った輪の付け根も左手の親指で押えます。

⑦左手の薬指と小指で持っていた黒色の縄を右手に持ち替え、静かに手前に引きまします。

⑧縄の両端を切りそろえて完成です。

Step 10

お手入れのお願い

●人工丸竹のお手入れ方法

- ・軽い汚れの場合は、真水で洗浄してください。
- ・ひどい汚れの場合は、表面の砂などを取り除き、薄めた中性洗剤で、傷を付けないように柔らかい布等で洗浄してください。
- ※特にひどい汚れを落とす場合でも、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤や、酸性洗剤・アルカリ洗剤などは、ひび割れ等の原因となりますので、絶対に使用しないでください。また、金属ブラシや、やすり等もパネル面を傷つけますので絶対に使用しないでください。

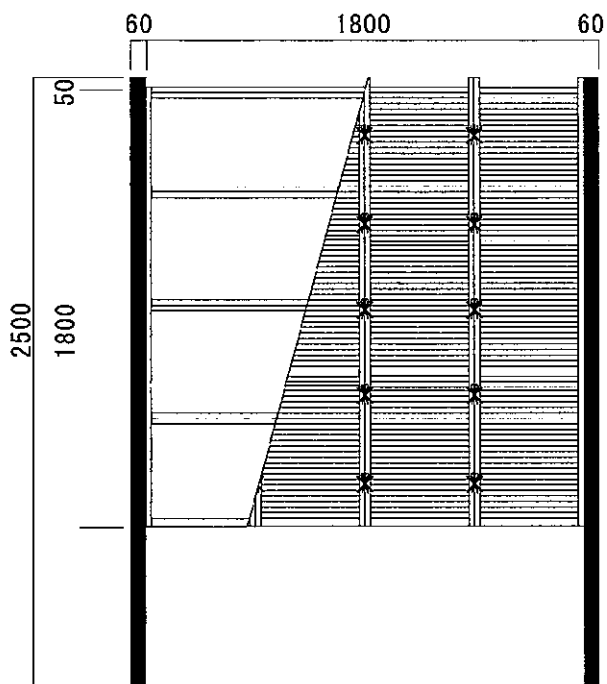
●アルミ部材のお手入れ方法

- ・通常のお手入れの場合は、年に1~2回、定期的に水洗いをしてください。(汚れのひどくなる工業地帯や海岸地帯は、回数を増やしてください。)
- ・落ちにくい汚れの場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とし、洗剤が残らないように真水で洗い流します。その後十分にかき拭きをしてください。
- ※特にひどい汚れを落とす場合でも、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤や、酸性洗剤・アルカリ洗剤などは、ひび割れ等の原因となりますので、絶対に使用しないでください。また、金属ブラシや、やすり等もパネル面を傷つけますので絶対に使用しないでください。

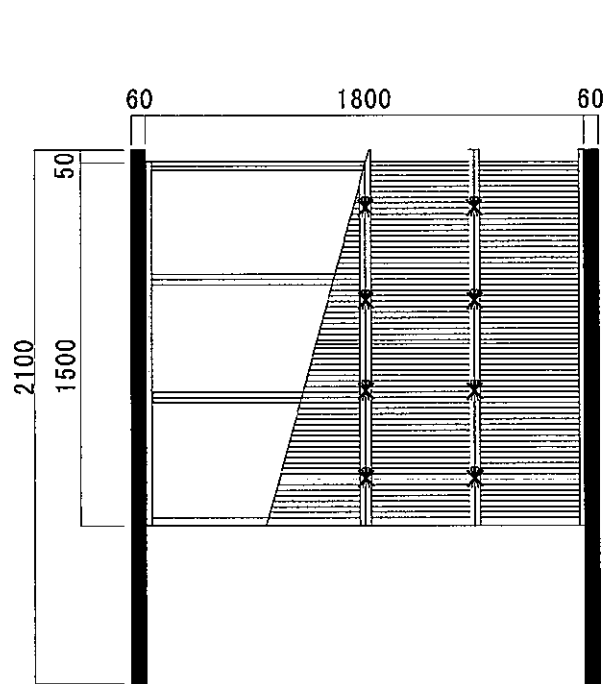
●各部材のご注意

- ・パネルや、アルミ部材が老朽化したり、破損した場合には、速やかに施工店、もしくは販売店に相談してください。そのまま放置しますと、事故につながる恐れがあります。

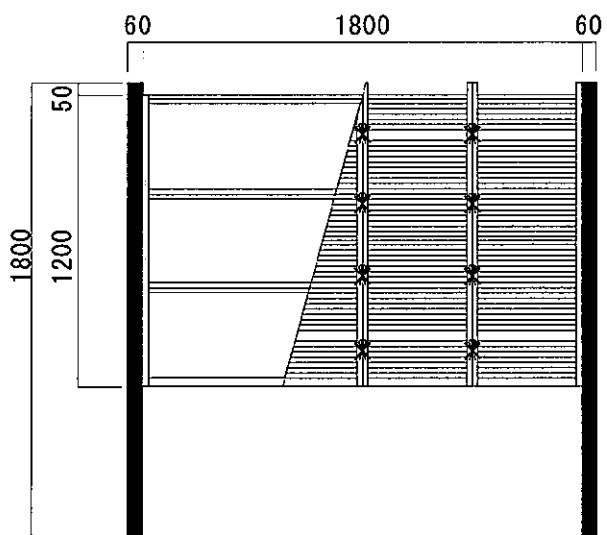
造作H1800mm 参考寸法図



造作H1500mm 参考寸法図



造作H1200mm 参考寸法図



造作H900mm 参考寸法図

